

## <業界レポート>

### インドネシアの化学肥料産業

(2026 年 4 月 17 日作成)

インドネシアは正式名称がインドネシア共和国、東南アジアの南部に位置する共和制国家である。赤道にまたがる地域に 1 万 7000 を超える島嶼を抱え、2025 年末時点で人口約 2.87 億人の世界最大の群島国家である。東南アジアに国土面積最大、人口最多のインドネシアは、新興工業国として、2023 年の名目 GDP が世界第 16 位、PPP（購買力平価）が第 7 位にランクされている。

インドネシアは赤道下にあり、温暖多雨の気候が農作物の生育に適して、主食（コメ）を含む食糧の自給率が 90～95% で高い。石油と天然ガスが豊富にあり、窒素肥料が自給できるが、りん資源と加里資源が乏しく、ほぼ全量輸入に依存している。

本レポートはインドネシアの化学肥料産業を紹介する。

#### 一、インドネシアの化学肥料産業の歩み

1942 年までの約 300 年間インドネシアはオランダの植民地であった。1945 年 8 月 17 日、日本の敗戦直後にスカルノとハッタが独立を宣言したが、再植民地化を狙うオランダとの独立戦争（インドネシア独立戦争）を約 4 年間戦い抜き、1949 年 12 月のハーグ協定で国際的に独立主権を認められた。独立後から 1959 年まで、インドネシアには零細の有機肥料を除き、肥料産業というものがなかった。

1959 年、国家の食糧増産政策に従い、政府は国営 Pupuk Sriwidjaja Palembang 社 (Pusri) を設立し、スマトラ南部の天然ガスを原料とするアンモニア・尿素工場の建設を決定し、化学肥料産業の道を歩き始めた。1963 年、南スマトラ州パレンバン (Palembang) に最初の年間尿素生産能力 10 万トンの Pusri I 工場が完成した。1971 年に 2 番目の年間尿素生産能力 38 万トンの Pusri II 工場、1976 年に 3 番目の Pusri III 工場、1977 年に 4 番目の Pusri IV 工場も完成した。Pusri III と Pusri IV 工場の年間尿素生産能力はそれぞれ 57 万トンである。1977 年の時点で Pupuk Sriwidjaja Palembang 社の 4 工場は年間約 160 万トン尿素を生産し、東南アジア諸国で最大の窒素肥料メーカーに成り立った。

Pupuk Sriwidjaja Palembang 社の成功を見て、インドネシア政府は 1964 年に東ジャワ州グレスック (Gresik) にアンモニア・尿素および重過リン酸石灰、化成肥料などを生産する目的の Petrokimia Gresik 社を設立した。2025 年現在、Petrokimia Gresik 社は年間約 500 万トン肥料、約 390 万トン非肥料製品を生産して、東南アジア最大の肥料メーカーとなった。

1970年代に東カリマンタン州ボンタン(Bontang)に国営 Pupuk Kalimantan Timur 社、西ジャワ州チカンペック(Cikampek)に国営 Pupuk Kujang 社をそれぞれ設立し、アンモニア・尿素を生産する。Pupuk Kalimantan Timur 社はカリマンタンの天然ガスを原料に5つのアンモニア・尿素工場、3つの化成肥料工場を有し、2025年の尿素生産能力343万トン、化成肥料生産能力30万トンである。Pupuk Kujang 社はアンモニア・尿素工場2つと化成肥料工場1つを有し、2025年の年間生産能力は尿素114万トン、化成肥料30万トンである。

1980年代に入ってからインドネシア政府は尿素生産能力の拡張に止まらなかった。アチェ州ロクスマウェ(Lhokseumawe)に国営 Pupuk Iskandar Muda 社を設立して、2工場を有し、年間尿素生産能力114万トンである。

インドネシアはりん資源が乏しく、スマトラ島のジャンビ州に小なりん鉱床があるだけである。ほかにいくつかの島に長年堆積された海鳥やコウモリの糞が化石化したグアノを少量産出する。従って、Petrokimia Gresik 社は1970年代からモロッコや中国からりん鉱石を輸入して、重過リン酸石灰(TSP)を生産する。1977年にTSP-I工場、1983年にTSP-II工場が完成し、重過リン酸石灰を生産するようになった。

また、2009年 Petrokimia Gresik 社はヨルダンと合併で Petro Jordan Abadi 社を設立し、東ジャワ州グレスックに年間生産能力20万トンの肥料用りん酸工場を建設し、2014年から生産が開始した。生産されたりん酸は国内で化成肥料などの生産に供する。

インドネシアは加里資源が全くない。必要な加里肥料は主にカナダ、ヨルダンとイスラエルから輸入している。近年、同じ東南アジアのラオスからの塩化加里輸入量が増えてきた。

1990年代中期までに Pupuk Sriwidjaja Palembang、Pupuk Kalimantan Timur、Pupuk Kujang、Pupuk Iskandar Muda の国営4社はそれぞれ独自の体制でやってきたが、1997年にインドネシア政府はこれらの肥料企業群を統括する会社として Pupuk Sriwidjaja Palembang 社を指定した。その後、2012年に Pupuk Indonesia (Persero) を設立して、Petrokimia Gresik 社も入れて、5社を統括する国有持株会社に再編したことで、同国の肥料産業をコングロマリット体制に移行した。2024年末現在、Pupuk Indonesia 社傘下に5社の子会社と数10社の孫会社を有し、年間尿素生産能力940万トン、重過リン酸石灰、硝安など80万トン、化成肥料460万トンの計1480万トンの世界有数の肥料会社に成長した。

インドネシア語の Pupuk とは「肥料」「肥やし」「堆肥」を意味し、植物の成長を促進するために土壌に加える栄養素を指す一般的な名詞である。

現在、インドネシアはすでに世界有数のアンモニアと尿素の生産大国に成長した。2023年の窒素肥料生産量(N換算)は世界第5位の674.1万トン。また、年間50~80万トンアンモニア、100~240万トン尿素を輸出し、世界のアンモニアと尿素貿易圏に重要な地位を築いた。アンモニアの主な輸出先は韓国、中国、インド、日本で、尿素の主な輸出先は東南アジアと南アジア諸国及びオーストラリアである。NPK化成肥料の輸出量が極僅かで、ほぼ全量インド向けである。

表 1 は 2020～2024 年インドネシア化学肥料生産量、表 2 は 2020～2024 年のインドネシア化学肥料輸出量、表 3 は日本向けのアンモニア輸出量を示す。なお、化学肥料生産量は Pupuk Indonesia 社と Saraswanti Anugerah Makmur Tbk 社 2 社の合計値で、ほかの肥料メーカーは非上場会社であるため、生産量などのデータが公開されていないこと、化学肥料の輸出資格は Pupuk Indonesia 社しかないことを注意すべきである。

表 1. 2020～2024 年インドネシアの化学肥料生産量（万トン）

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
アンモニア	601.3	615.0	595.7	594.3	588.1
尿素	798.3	796.9	746.7	769.7	768.2
NPK 化成肥料	332.7	358.1	389.1	365.5	456.4
その他の肥料	125.8	109.8	90.1	81.5	60.7

データ出所： Pupuk Indonesia 社と Saraswanti Anugerah Makmur Tbk 社の年次報告書

表 2. 2020～2024 年インドネシアの化学肥料輸出量（万トン）

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
アンモニア	54.1	71.5	75.0	60.4	51.8
尿素	239.0	239.0	174.8	83.9	141.4
NPK 化成肥料	27.5	14.5	2.7	12.7	2.8

データ出所： Pupuk Indonesia 社の年次報告書

表 3. 2020～2024 年日本のアンモニア輸入量とインドネシアからの輸入量（万トン）

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
アンモニア全輸入量	21.3	21.7	27.0	18.7	22.7
インドネシアからの輸入量	12.4	16.5	21.0	13.1	13.5
インドネシアのシェア (%)	58.0	76.1	77.6	70.0	59.2

データ出所： 財務省貿易統計

インドネシアはわが国の最大のアンモニア供給国である。そのシェアは 60～80% も占めて断トツの 1 位である。ただし、インドネシアからの尿素輸入量が少なく、年間数 10～数 1000 トンだけである。

アンモニアと尿素的生産がすべて国営 Pupuk Indonesia 社に独占されているため、民間企業が化学肥料産業への進出が困難である。2025 年末現在、年間生産能力が 10 万トンを超えた民間の肥料メーカーが 3 社しかなく、生産品目も化成肥料に限られている。

以下はインドネシアの化学肥料メーカーを簡単に紹介する。

## 二、国営肥料メーカー

インドネシアは石油や天然ガスなどの天然資源採掘が国営企業に独占される。従って、それを原料とするアンモニアと尿素の生産がすべて国営 Pupuk Indonesia 社に握られ、民間企業は参入できない。

以下は国営 Pupuk Indonesia 社傘下の 5 つの子会社を簡単に紹介する。

### 1. Pupuk Sriwidjaja Palembang 社 (Pusri)

Pupuk Sriwidjaja Palembang 社は国策会社として、1959 年 12 月 24 日に南スマトラ州パレンバン (Palembang) に設立され、インドネシア初の化学肥料メーカーである。

1961 年、日本国の ODA 資金援助と東洋工業 (現東洋エンジニアリング) の尿素技術を利用し、最初のアンモニア・尿素工場 Pusri I 工場の建設が開始し、1963 年に完成・稼働した。年間生産能力尿素 10 万トンであった。その後、老朽化により建て替えられ、1994 年に Pusri IB 工場として再稼働した。なお、Pusri IB 工場は年間生産能力が 44.6 万トンアンモニア、57 万トン尿素に拡張された。建て替えも日本国の資金援助と東洋工業 (現東洋エンジニアリング) の尿素技術を利用している。

1971 年に 2 番目のアンモニア・尿素工場 Pusri II の建設が開始し、1974 年に完成・稼働した。年間生産能力尿素 38 万トンであった。この工場も日本国の資金援助と東洋工業 (現東洋エンジニアリング) の尿素技術を利用した。当該工場が 2017 年まで稼働したが、老朽化により廃止された。その代わりに 2013 年から Pusri II B 工場の建設を開始し、2018 年に完成・稼働した。なお、現時点では Pusri II B 工場が Pupuk Sriwidjaja Palembang 社の最大の工場で、アンモニアの年間生産能力は 66 万トン、尿素の年間生産能力は 90 万 7,500 トンである。アンモニアプラントは KBR Purifier Technology の技術、尿素プラントは東洋エンジニアリングの技術を利用する。

1975 年 5 月に 3 番目のアンモニア・尿素工場 Pusri III、10 月に 4 番目のアンモニア・尿素工場 Pusri IV の建設が開始し、それぞれ 1976 年と 1977 年に完成・稼働した。両工場とも年間生産能力 44.6 万トンアンモニア、57 万トン尿素で、日本国の資金援助と東洋工業 (現東洋エンジニアリング) の尿素技術を利用した。ただし、この 2 工場は老朽化のため、2023 年に Pusri III を Pusri III B 工場に建て替え、Pusri IV は廃止すると決定した。新たに建て替える Pusri III B 工場は 2027 年に完成・稼働する予定である。なお、Pusri III B 工場はアンモニアプラントの年間生産能力 44.5 万トン、尿素プラントの年間生産能力 90 万 7,500 トンと設計している。同様に尿素プラントは東洋エンジニアリングの技術を利用する。

化成肥料については、2014 年から年間生産能力 10 万トン化成肥料の Pusri NPK Fusion 工場の建設が開始し、2016 年に稼働が開始した。当該化成肥料工場の稼働により、Pupuk Sriwidjaja Palembang 社は尿素肥料だけでなく、複合肥料市場における競争力が強化され、インドネシア国内の農業現場における多様な肥料ニーズに対応し、高品質な複合肥料を供

給することができた。

その後、2018年にPusri NPK Fusion II工場も完成・稼働している。当該工場は2生産ラインから構成され、蒸気溶融造粒技術を利用して、各生産ラインの年間生産能力がそれぞれ10万トン、計20万トン化成肥料を生産することができる。

2025年末現在、Pupuk Sriwidjaja Palembang社はアンモニア生産能力180万トン、尿素生産能力262万トン、化成肥料生産能力30万トンを保有する。

上記各肥料工場のほか、Pusri Agro Lestariという農薬子会社も持っている。

Pupuk Sriwidjaja Palembang社の連絡先は下記の通りである。

本社

Jl. Mayor Zen, Palembang, 30118

Tel. +62-(711)-712222, 712111

ジャカルタオフィス

Wisma 101, Jalan Letjen S. Parman Kav. 101

Grogol Petamburan, Jakarta Barat - DKI Jakarta, 11440

Tel. +62-(021)-5481208

## 2. Petrokimia Gresik 社

Petrokimia Gresik社は国策会社として、1964年12月8日に東ジャワ州グレスック(Gresik)に設立され、インドネシアで2番目の化学肥料メーカーである。

Petrokimia Gresik社の前身は1960年のMPR法令第II号に基づき、東ジャワの石油と天然ガス資源を利用するために発足したスラバハ石油化学プロジェクトである。1962年に産業鉱業省の産業プロジェクト準備機関(BP3I)による実現可能性調査の結果、肥料工場の立地としてグレスックが選ばれ、会社名もPetrokimia Gresik社に決定した。ほかの肥料会社と異なり、名称に「Pupuk」ではなく、「Petro」を付けるのは元来の石油化学プロジェクトに由来するものである。

最初の肥料工場はアンモニアを生産し、それを原料にして非尿素系の硫安などの窒素肥料を生産していたが、1994年に東洋工業(現東洋エンジニアリング)の技術で尿素生産能力46万トンの尿素プラントAmurea I Aが完成・稼働し、尿素生産が始まった。

2013年から2番目のアンモニア・尿素工場Amurea IIの建設が始まり、2018年に完成・稼働した。Amurea IIの年間生産能力はアンモニア82.5万トン、尿素57万トンである。生産されたアンモニアは尿素、化成肥料などの製造に供するほか、輸出もされる。

2022年から硝酸および硝酸工場の建設が始まり、2025年に硝酸プラントが完成・稼働し、硝酸系化成肥料の生産が可能となった。2027年に硝酸プラントが完成すれば、年間10万トン硝酸の生産が可能となる。

また、国内の窒素肥料需要増加に対応するため、3番目のアンモニア・尿素工場Amurea IIIの建設が計画されている。2030年にAmurea IIIが完成すれば、年間82.5万トンのアンモ

ニアと 46.2 万トンの尿素生産能力が加わる。

窒素肥料以外に、1976 年にリン酸肥料工場が完成し、重過リン酸石灰の生産を開始した。2000 年にインドネシア最初の NPK 化成肥料工場の操業を開始し、2005 年には Petroganik ブランドの有機肥料の生産も開始した。2008 年に硫酸加里工場が完成した。

2009 年ヨルダンと合弁で Petro Jordan Abadi 社を設立し、年間生産能力 20 万トンの肥料用粗りん酸工場を建設し、2014 年から生産が開始した。生産された粗りん酸は化成肥料とりん安の生産に供する。

2025 年末現在、Petrokimia Gresik 社は年間 110 万トンアンモニア、103 万トン尿素、322 万トン化成肥料、50 万トン重過リン酸石灰、75 万トン硫安、2 万トン硫酸加里、60 万トンりん安の生産能力を有している。

Petrokimia Gresik 社は肥料のほか、硫酸、塩酸、フッ酸、農薬、家畜飼料添加剤、界面活性剤なども生産している。

Petrokimia Gresik 社の連絡先は下記の通りである。

本社

Jl. Jenderal Ahmad Yani - Gresik 61119

Tel. +62-(031)-3981811, 3982100, 3982200

Fax: +62-(031)-3981722, 3982272

### 3. Pupuk Kalimantan Timur 社 (Pupuk Kaltim)

Pupuk Kalimantan Timur 社は略称 Pupuk Kaltim、1975 年の大統領令第 43 号および 1976 年の大統領令第 39 号に基づき、1977 年 12 月 7 日に設立されたインドネシアで 3 番目の化学肥料メーカーである。

1979 年に Kaltim I 工場の建設が始まり、1982 年初頭にも Kaltim II 工場の建設が開始した。1984 年 10 月 28 日、2 工場同時に竣工、稼働が開始した。Kaltim I 工場の年間生産能力はアンモニア 59.5 万トン、尿素 70 万トン、Kaltim II 工場の年間生産能力はアンモニア 59.5 万トン、尿素 57 万トンである。その後、1996 年に Kaltim I 工場はブリル尿素プラントを大粒尿素プラントに改造し、Kaltim I A 工場と改称され、1999 年 4 月に完成・稼働した。Kaltim I A 工場の尿素生産能力が年間 57 万トンである。

1986 年に Kaltim III 工場の建設が始まり、1989 年 4 月 4 日に稼働した。Kaltim III 工場の年間生産能力はアンモニア 33 万トン、尿素 57 万トンである。その後年間 13,000 トンの尿素ホルムアルデヒド製造装置(UFC-85)が建設され、緩効性窒素肥料の生産が始まった。

Kaltim I と Kaltim II 工場の余剰アンモニアを有効利用するため、1996 年に尿素ユニット IV(POPKA)の建設が始まり、1999 年 4 月に完成・稼働した。尿素ユニット IV(POPKA)の生産能力は年間 57 万トンである。

1999 年に Kaltim IV 工場の建設が始まり、尿素プラントは 2002 年半ば、アンモニアプラントは 2003 年初頭に完成した。Kaltim IV 工場の年間生産能力はアンモニア 33 万トン、尿

素 57 万トンである。

2011 年に Kaltim V 工場の建設が始まり、2014 年 6 月に稼働した。Kaltim V 工場の年間生産能力はアンモニア 85 万トン、尿素 115 万トンで、インドネシア最大のアンモニア・尿素プラントである。

上記 5 工場はすべてポンタン市にあり、Kaltim II と Kaltim III はプリル尿素、Kaltim I A、Kaltim IV と Kaltim V は大粒尿素を生産する。

ほかに、Pupuk Kalimantan Timur 社は 2005 年に NPK-I、2010 年に NPK-II、2024 年に硝酸ベースの NPK-III 化成肥料工場が完成・稼働した。この 3 つの化成肥料工場はポンタン、スマラン、スラバヤの 3 都市にあり、年間生産能力それぞれ 10 万トンの計 30 万トンである。

2025 年末現在、Pupuk Kalimantan Timur 社は年間 270 万トンアンモニア、340 万トン尿素、30 万トン化成肥料の生産能力を有している。

Pupuk Kalimantan Timur 社の連絡先は下記の通りである。

本社

Jl. James Simandjuntak No. 1 Bontang 75313 Kalimantan Timur, Indonesia

Tel. +62-(548)-41202, 41203

Fax: +62-(548)-41616, 41626

#### 4. Pupuk Kujang 社

Pupuk Kujang 社は 1975 年 6 月 9 日に西ジャワ州カラワン (Karawang) に設立された 4 番目の国営肥料会社である。年間 33 万トンアンモニアと 57 万トン尿素的生産能力がある最初の Kujang 1A 工場は 1976 年に建設が始まり、1978 年 12 月に完成・稼働した。建設資金の 77% はイラン政府からの 2 億ドル融資で賄い、日本の東洋工学 (現東洋エンジニアリング) の尿素技術を使用している。

2003 年 10 月から Kujang 1B 工場を建設し、2006 年 4 月に完成・稼働した。建設資金は日本国際協力銀行 (JBIC) からの 270 億 4,800 万円の融資で賄われ、東洋エンジニアリングの尿素技術を使用している。Kujang 1B 工場の年間生産能力は 33 万トンアンモニアと 57 万トン尿素である。

Kujang 1A 工場と Kujang 1B 工場の老朽化により、アンモニアプラントの更新を決定した。Kujang 1A 工場の新アンモニアプラントの年間生産能力は 33 万トンのままで、2030 年に完成・稼働する予定である。Kujang 1B 工場の新アンモニアプラントの年間生産能力が 39.6 万トンに拡張され、2028 年に完成・稼働する予定である。

尿素的のほか、Pupuk Kujang 社は 2 つの硝酸・硝安工場と 2 つの NPK 化成肥料工場を有する。

MNK I 工場は 1989 年に建設、1990 年に稼働が開始した。年間生産能力 5.5 万トン硝酸と 3.7 万トン硝安である。MNK II 工場は 2011 年に建設、2012 年に稼働が開始した。年間

生産能力 16 万トン硝酸と 10 万トン硝酸である。

化成肥料工場については、年間生産能力 20 万トンの NPK I 工場の建設と稼働時期が不明だが、2015 年 10 月に完成した NPK II 工場は年間 10 万トンの生産能力がある。なお、2025 年から年間硝酸ベースの化成肥料 10 万トンを生産する NPK III 工場の建設が始まり、2027 年に完成する計画である。

2025 年末現在、Pupuk Kujang 社は年間 66 万トンアンモニア、114 万トン尿素、30 万トン化成肥料の生産能力を有している。

Pupuk Kujang 社の連絡先は下記の通りである。

本社

Jl. Jend. A. Yani No. 39 Cikampek Kab. Karawang, Jawa Barat

Tel. +62- (0264)-316141, 317007

## 5. Pupuk Iskandar Muda 社

Pupuk Iskandar Muda 社は 1982 年 2 月 24 日アチェ州に設立されたインドネシアで 5 番目の国営肥料会社である。アチェ州に設立する主な理由は天然ガス田に近く、水源豊富と取水便利、港湾施設の存在など肥料生産と輸出に非常に有利な戦略的な位置である。

PIM-1 工場の建設は 1982 年に開始し、1985 年 3 月完成・稼働した。総投資額 3 億 840 万ドル、年間生産能力 33 万トンアンモニアと 57 万トン尿素である。旧三井東圧の尿素技術を使用している。

PIM-2 工場は 1999 年に建設が開始し、2005 年 8 月に完成・稼働した。総投資額 3 億 1,020 万ドル、年間生産能力 39.6 万トンアンモニアと 57 万トン大粒尿素である。東洋エンジニアリングの尿素技術を使用している。

自家産の尿素を原料として、緩効性肥料のホルム窒素(UF)を生産するプラントもある。その生産能力は 17~27 トン/日である。

2019 年に NPK 化成肥料工場の建設が始まり、2023 年 2 月に操業が開始した。年間生産能力 50 万トン NPK 化成肥料である。

ほかに、最大 2 万トンの船が荷役できる専用の港を有し、原材料や製品の輸出輸入に利用される。また、年間 12,000 トンの処理能力を持つ過酸化水素(H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>)プラントは 1999 年に建設が始まり、2003 年に数か月間稼働した。長い休止期間を経て、2022 年 2 月に改造を行い、2024 年 8 月に再稼働した。

2025 年末現在、Pupuk Iskandar Muda 社は年間 72.6 万トンアンモニア、114 万トン尿素、50 万トン化成肥料の生産能力を有している。

また、年間生産能力アンモニア 82.5 万トン、尿素 57 万トンの PIM-3 工場がすでに着工され、2030 年に完成・稼働する計画である。

ほかに、年間生産能力 82.5 万トンのブルーアンモニア工場を建設する計画もある。

Pupuk Iskandar Muda 社の連絡先は下記の通りである。

本社

Jl. Medan - Banda Aceh, Tambon Baroh Kec, Aceh Utara Provinsi Aceh

Tel. +62- (645)- 56222

## 6. Papua Batrat プロジェクト

Papua Batrat プロジェクトは国家戦略プロジェクトの一環として、東インドネシアの食料安全保障を強化するために、Pupuk Indonesia 社が西パプア州 Fak-fak 県の統合工業地域に 67 億ドルを投資して、年間生産能力アンモニア 82.5 万トン、尿素 115.5 万トンの肥料工場を建設する。2027 年に完成・稼働開始が見込まれている。なお、当該工場の運営は暫定的に Pupuk Kalimantan Timur 社が行うことになる。

ほかに、Pupuk Indonesia 社は日本の INPEX 社などと協力して、アチェ、東カリマンタン、南スマトラ、東ジャワの各アンモニア製造施設で 7 つのブルーアンモニアプロジェクトを行う計画を立てている。古い石油・ガス井を貯蔵施設として、アンモニア生産工程に発生する二酸化炭素を回収し、注入して貯留する。2045 年までに年間合計 430 万トンのブルーアンモニア生産を目標としている。

それに加えて東洋エンジニアリングや伊藤忠商事など日本のパートナーと連携し、アチェ州でのグリーンアンモニア（GAIA プロジェクト）も推進している。

## 三、インドネシアの民間肥料会社

インドネシアの民間肥料会社は石油や天然ガスを入手できないため、アンモニアと尿素の生産ができない。各国営肥料会社からアンモニアまたは尿素を購入して、輸入りん安（MAP、DAP）や塩化加里などを加え、化成肥料または BB 配合肥料を生産するしかない。従って、生産規模が小さく、製品も地元向けである。

以下は一定規模のある 3 社の化成肥料メーカーを紹介する。

### 1. Saraswanti Anugerah Makmur Tbk 社

Saraswanti Anugerah Makmur Tbk 社は 1998 年 6 月 18 日東ジャワ州に設立された民間の肥料会社である。東ジャワ州、北スマトラ州、中央カリマンタン州に 5 つの工場を持ち、非補助金の NPK 肥料を製造・販売している。インドネシア最大の民間肥料会社で、2020 年 3 月 31 日にインドネシア証券取引所に上場しているため、会社名の後部に Tbk を付けている。

Saraswanti Anugerah Makmur Tbk 社は正式雇用の従業員数約 560 名、年間生産能力 NPK 化成肥料 70 万トン、苦土石灰肥料約 24 万トン、主な顧客はパーム農園の経営者で、パーム栽培用の肥料を生産する。

Saraswanti Anugerah Makmur Tbk 社の 5 つの工場所在地と生産能力は下記の通りで

ある。

**Mojokerto I 工場：** 1999 年東ジャワ州 Gedhangan に稼働された最初のペレット肥料工場であったが、2001 年に Mojokerto に移転して、Mojokerto I 工場に改称される。最初は年間生産能力 10 万トン、2023 年に生産ラインを増設し、生産能力が 20 万トンに拡大される。

**Medan I 工場：** 2004 年北スマトラ州 Medan に稼働された 2 番目のペレット肥料工場である。年間生産能力 10 万トン。

**Mojokerto II 工場：** 2010 年東ジャワ州に開設された最初の化成肥料工場である。年間生産能力 10 万トン。

**Medan II 工場：** 2015 年北スマトラ州 Medan に稼働された 2 番目の化成肥料工場である。年間生産能力 20 万トン。

**Sampit 工場：** 2017 年中央カリマンタン州に開設された 3 番目の化成肥料工場である。年間生産能力 10 万トン。

2024 年北スマトラ州 Medan に Medan II 工場の拡張用地を購入し、生産能力を 30 万トンに拡張することを計画している。Sampit 工場にも 1 生産ラインを追加し、年間生産量を 20 万トンに増強する計画がある。

Saraswanti Anugerah Makmur Tbk 社の連絡先は下記の通りである。

本社

AMG Tower, 20th Floor, Jl. Dukuh Menanggal 1-A, Gayungan, Surabaya 60234, Jawa Timur.

Tel. +62-(31)-82516888, Fax: +62-(31)82516555

## 2. Jadi Mas 社

Jadi Mas 社は 1975 年東ジャワ州 Surabaya に設立された非上場の肥料会社である。NPK 化成肥料および有機肥料を生産している。2 つの NPK 化成肥料工場を有し、年間生産能力 15 万トン、この分野の老舗企業です。

NPK 化成肥料工場は東ジャワ州 Gresik、有機肥料工場は東ジャワ州 Pasuruan にある。

Jadi Mas 社の連絡先は下記の通りである。

本社

Jl. Banyu Urip No.4, Dusun Guo, Kupang Krajan, Kec. Sawahan, Surabaya, Jawa Timur

Tel. +62-(031)-7590137

## 3. Dupan Anugerah Lestari 社

Dupan Anugerah Lestari 社は 2003 年東ジャワ州 Surabaya に設立された非上場の肥料会社である。2025 年末現在、東ジャワ州 Mojokerto に化成肥料工場を有し、NPK 化成肥料の年間生産能力 12.5 万トンである。また、東ジャワ州の Mojosari と Medan、南スマト

ラ州の Palembang、中央カリマンタン州の Sampit にさらに 5 つの新工場を建設する計画がある。

Dupan Anugerah Lestari 社の連絡先は下記の通りである。

本社

AMG Tower, Lt. 20, Jl. Dukuh Menanggal 1-A, Gayungan, Surabaya 60234, Jawa Timur.  
Tel. +62-(031)-82516888, Fax: +62-(031)-82516555

ほかに、各地域に BB 配合肥料メーカーもあるが、生産規模が小さく、原料もほとんど国営 Pupuk Indonesia に依存しているため、その紹介を省略する。

図 1 はインドネシアの主要化学肥料メーカー所在地を示す。



図 1. インドネシアの主要化学肥料メーカー所在地

- ① : Pupuk Iskandar Muda、 ② : Pupuk Sriwidjaja Palembang、 ③ : Pupuk Kujang、  
④ : Petrokimia Gresik、 ⑤ : Pupuk Kalimantan Timur、 ⑥ : Papua Batrat プロジェクト、  
⑦ : Saraswanti Anugerah Makmur Tbk、 ⑧ : Jadi Mas、 ⑨ : Dupan Anugerah Lestari